

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000111	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ戸塚			
所在地	(244-0003) 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町167-29			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年11月12日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフのチームワークが良く、情報共有が出来ている。人間関係が良好であり、介護の質が良い。また離職や異動が少なく、ご利用者と職員は馴染みの関係作りが出来ている。職員にとって働きやすい職場であり、ご利用者にとっても居心地の良い空間であると思う。ご家族の来訪も多くあり、出入りしやすい環境づくりを目指している。例年、戸塚小学校のさくら福祉委員会や園児、ご家族や地域住民との交流もある。社会福祉専門学校の研修生の受入をしたり、他事業所との交換研修を行い、職員のスキルアップにつながっている。老人保健施設や病院からの紹介があり、在宅復帰を目指している。下期より看護職員が2名となり、週に4回程度勤務しているので、ご利用者様の体調管理も充実していると思う。研修やミーティングにも力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年11月27日	評価機関 評価決定日	平成26年12月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者情報の共有による利用者との良好な関係作り 職員間のコミュニケーションが良く、通い・訪問・泊りのサービスで得た利用者情報を共有し、利用者一人ひとりとの関係作りを進めている。職員の定着率も高く、馴染みのスタッフによる利用者との信頼関係作りに努めている。 ◇全職員参加の話し合いによる業務の改善 スタッフ会議や業務改善会議、30分研修、ケアカンファレンス、担当者会議を同一日に開催するよう改善した結果、全職員参加の意見交換が可能となり情報が共有化され、ノロウイルスキットの購入、服薬管理など、業務の改善が効率的に行われている。 ◇毎月の「30分研修」によるサービスの質の向上 毎月の「30分研修」で、電話対応、認知症ケア、虐待防止、倫理遵法などの研修を行い、職員のサービスの質の向上を図っている。</p> <p>【事業所が工夫している】 ◇筋肉リハビリとマッサージによる利用者の体力維持 利用者が可能な限り永く自宅での生活ができるよう、トレーニングマシンを使った筋肉リハビリに力をいれており、職員がその傍で利用者の手をマッサージしてトレーニングを支援している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ戸塚
ユニット名	小規模多機能型居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	戸塚センター理念である「笑顔で家庭的な介護を目指します」はスタッフ全員が唱和することが出来る。理念を常に念頭に置き、笑顔で家庭的な雰囲気作りを大切に実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のスタッフ会議で事業所の理念を全員で確認している。 ・理念の「いつも笑顔」を目標に、全職員が毎月の研修でスタッフ間のチームワークの向上を図り、理念の実践につなげている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントを開催したり、防災訓練実施の際、地域に呼びかけ、地域住民の方に参加していただいている。戸塚小学校のさくら福祉委員会や近隣の幼稚園、保育園との交流がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の秋祭りやクリスマス会には、近隣の小学校や幼稚園、保育園に呼びかけ、小学生や園児、その家族が訪れ、歌や遊びで利用者と交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域の行事や学校のイベントにも利用者が参加する機会を設け、地域との交流が一層深まることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症フォーラムで小規模多機能の説明や認知症についての説明の機会がある場に参加している。横浜市主催の介護の日フォーラムにも参加した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故状況や、個別対応の実例など報告している。毎回課題を取り上げ、報告しアドバイスをいただき、課題解決に向けスタッフにも情報を発信し、取組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族、老人会会長、民生委員、地域ケアプラザの職員などが参加して、2か月ごとに開催している。 ・参加者から電話応答について改善要請があり、研修会を開いて検討し、改善している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡会への参加、ケアマネットの参加、医療連携への参加しお互いに連携を取るようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市および区の小規模多機能連絡会に参加し、事例検討会や情報交換を行い、連携を図っている。 ・区の医療介護連携会議では看取りや認知症の具体的情報を得ている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行いスタッフへの理解を深めている。帰宅願望の利用者様に対しても、スタッフの見守り強化、気持ちをそらす工夫等を行い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・「身体拘束排除宣言」、身体拘束排除マニュアルのもとに研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・帰宅願望の人には、昔話をして気をそらすなどの工夫をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行っている。来所時や入浴時に身体面の観察を行い、早期発見に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設けているが、不足する部分がある為、今後勉強会等に参加し情報の収集をしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、又は改正等の際は本人家族と十分話し合い、理解、納得したうえでやっている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を玄関に設置している。送迎時やご連絡を頂いた際に意見や要望を聴取するよう努力している。	・利用者家族からの意見・要望は送迎時やパソコンのメール、携帯電話で聞いている。 ・家族を事業所の担当者会議に招いて意見を聞き、運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや月に一度のスタッフ会議で職員間の意見交換をしている。何かあるときは其の都度話し合う。個別に話しを聞くこともある。業務改善会議等の機会も設けている。	・研修、スタッフ会議、業務改善会議を同一日に開催し、全職員が参加して意見交換がしやすい体制に改善している。 ・業務改善会議の中で服薬管理方法、庭の草取りを討議して改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対しての挨拶や日々の感謝の気持ちを表にしたり、ねぎらいの言葉かけをするよう心がけている。向上心がもてるよう、褒めたり励ましたりしている。個別面談の機会も設けスタッフの心身の状況の把握に努めている。キャリア評価制度がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材教育に力を入れている当社は総合研修所があり、スタッフの力量に合わせた研修を選び、参加を勧めている。外部研修の情報提供をしている。また、資格取得に向け積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所と交換研修を行い交流をもったり、区役所主催の研修に積極的に参加している。情報交換をし良いところを吸収し、サービスの向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の段階で本人の要望等をヒアリングシートを用い聞き出している。アセスメントをしっかりと伝え、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の段階で家族の要望、困っていることを聞き、それに向けて支援していくことを伝え、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期において今、なにが必要なサービスかを見極め、様々な分野も考慮しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野を尊重し、潜在意識をうまくすくい出せるよう、教えてもらう姿勢を表現するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族においても、本人にとっても無くてはならない存在を位置づけにして介護にも積極的に参加して、共に支え合っている事を伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人との触れ合いを大事にし、送迎時の乗り降り時、本人のいつもの場所、人とも挨拶や声かけを行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のデータや利用者、家族からの情報をもとに馴染みの人、店などを把握し、関係の継続支援に努めている。 ・元のマンション住人の訪問時や行きつけの店に出かける利用者を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を見極め、利用者同士が話しが出来るよう席順や位置に気を配っている。全体でレクレーションを行ったりコミュニケーションをとっている。孤立しそうな方がいた場合、職員ご利用者全てで声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても連絡を取り、近況報告を受けたり状況把握に努め、本人家族にとって、ときには相談に応じている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、対応しながら本人の希望、意向を把握している。そのことが困難な場合は本人にとって何が一番良いかを常に考慮しながら支援している。状況の変化があった場合には担当者会議やケアカンファレンスを行い検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で利用者とのスキンシップをはかり、意向の把握に努めている。通い終了時や泊りのとき、1対1で本音を聞いている。 ・利用者の介護補助具導入の思いを実現するため、家族やレンタル業者を入れ、対応策を検討している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのような暮らしをしてきたのか本人、家族、ケアマネに聞きながら生活歴を把握している。また、日々のコミュニケーションにより次第に把握していくことも出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らし方、出来る事出来ない事、現状をご家族と連携をとり、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり本人、家族関係者と話し合い、相談しながら意見交換している。現状に合った計画を作成している。定期的に職員間でケアカンファレンスも行い、反映している。	・本人、家族の意向を聞き、全職員参加のカンファレンスで利用者の自宅での状況も加味し、計画を作成している。 ・3か月ごとに計画の見直しを行い、状況変化時は臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアを実践した時の気づき、発見、工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況の変化に応じた対応を行なっている。利用日でない日も臨時利用や振替利用を受けたりしている。サービス時間の融通も考慮し臨機応変に対応している。個別でご家族と外出するなどの機会も多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察の見回り、消防署より年二回の防災訓練実施、保育園、小学校との交流も持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院との連絡会出席、必要に応じてかかりつけ医の受診同行も行なうようにしている。また、往診医との連携をとり医師にミモザでの状況を伝えられる機会をなるべく作るようにしている。	・利用者全員が従来のかかりつけ医を利用し、家族の付添いで通院している。必要により職員が同行している。 ・看護師が病院で病状を説明したり、自宅を訪問して健康状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が業務のときの気づきを報告していただいている。こちらからの気づきも看護師に報告し、指示を仰ぐ。情報をお互いに提供し合い、適切な処置や受診につなげる事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、状態把握をし、情報交換に努めている。早期退院に向けてもケースワーカーとの連絡を取りあっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて家族と常に現状把握に努めている。今後の方針や病院との連携もチームとして支援していくことを伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合や終末期の対応を家族と話し合い、事業所として病院とも連携していく方針を伝えている。 ・本部研修「ターミナルケアについて」に職員が参加し、夜間対応の自主研修も行っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて研修を行ない応急法、訓練を全スタッフが身につけるよう努めている。又忘れない様に定期的に応急処置の方法を学んでいる。ベテラン職員が多く、緊急時の対応はそつなくこなすことができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に避難出来る様避難訓練を年二回行なっている。全スタッフが二回のうち必ず一回は参加出来る様調整している。防災マップなどで地域の状況を把握するよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の立会いのもと、地域住民も参加して、年2回避難訓練を実施している。夜間想定 of 緊急訓練では職員の半数が参加している。 ・東日本大震災の教訓から備蓄品を再点検し、避難場所の確認と区の防災マップで状況確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の指定避難場所を家族に事前に連絡しておくことが望めます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を持ち、常に人格を尊重し接遇についての研修も行なっている。言葉遣いや態度も見直す機会を持つ様個別に指導することもある。	・職員は利用者に対し、人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう注意し対応している。 ・「高齢者への接し方」についての研修を行い、スタッフの心得について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉にも注意を払い、思いや希望を表現できる様うながしたり、雰囲気作りにも気を使っている。会話の中での本人からの発信がスタッフから報告があがることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人や家族の思いや希望を受け止め、一日の流れをその人のペースに合わせてスタッフや家族と話し合い決定し、承認して進めていく。その日の心身状況に合わせてその方に合わせた個々の対応をしていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に行きつけの理、美容室に行ける人は家族対応で、その他の人はスタッフに美容師がいるのでカット、髭剃り、毛染め等を行なっている。また、衣服の選択支を得られるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうに見える様見た目、味付け、食べやすさ、献立を考え一人ひとりの好みに合うようにしている。また、食前にテーブルを拭いて頂いたり、食後に下膳のお手伝いなどを一緒に行なっている。	・専任職員が利用者の好みに配慮して調理し、泊りの利用者には個別に希望を聞き、対応している。行事食で楽しく食事ができるよう工夫している。 ・利用者はテーブル拭きや下膳の手伝いを職員と一緒にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門のスタッフによりバランスのとれた食事を提供している。水分量も一日〇〇ccと記入したり、状態に応じて食事形態を変えたり個別に対応している。水分制御の人や塩分制御の把握に努めている。薄味など個別対応することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の歯磨きを促し、介助が必要な方には個別対応してその人の力に応じた口腔ケアを行なっている。歯科医から、口腔ケアの指導をしてもらうこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の排泄の誘導（来所時・レク後・昼食前・後・入浴前・帰宅前） 個々の習慣や家族の要望に応じた対応をしている。本人態度や様子を観察して介助に入らせて頂いたり、できることはご自分でしていただき、自立支援に向けている。	・利用者の様子を観察し、時間を決め、トイレへ誘導している。自分でできることはしてもらい、排泄の自立に向け支援に努めている。失敗したときは、さりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を把握し、ご家族や看護師と連携をとっている。便秘の予防として水分や食事の内容に工夫したりリズム体操等取り入れスムーズな便通を促す様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前からとなっているが、個人のペースと希望を取り入れている。拒否のある方は時間をかけて無理は避けるようにしていき、本人の状態と納得されてからお誘いすると抵抗がなくなった事例がある。	・同性介助や湯温の好みなど、利用者の希望に沿って入浴を楽しめるよう支援している。入浴嫌いの利用者には、会話を大切にして、無理なく誘導している。 ・菖蒲湯、ゆず湯で季節感を楽しめるように対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は昼食後にとって頂いているが、熟睡される方もいらっしゃる。昼夜逆転しない様個々の生活習慣や睡眠状態をその都度家族や本人から聞き取り休息を支援している。夜間は個人個人の生活習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、内服している処方箋を個人ファイルに添付し、目的、副作用について理解できる様説明すると共に、服薬支援、個別包装も行なっている。変化があった場合には、薬情報のノートに情報を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や家族から趣味や生活歴の情報を収集して一人一人の才能や技術を呼び起こし、自信を付けられる様に支援している。将棋やおセロ、パワリハなどが目的で来られている方もいる。また、趣味を活かしてイベントも行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化や四季折々の環境を体験できる様、定期的に外出支援を行なっている。お花見や外出に出かけ、車椅子の方も全員参加している。ご家族にも同行していただき協力を得ている。また、習い事の送り出しの支援もしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、車椅子の人も近くの柏尾川に出かけており、散歩中の園児との交流もある。 ・四季の変化を楽しめるよう、車で的外出を定期的に行っている。また利用者の個別の買い物にも対応している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持参している方もいる。家族も承認している為、近所への買い物や外出時に使う楽しみ、選ぶ喜びを得て頂いている。金銭管理の能力にも合わせた支援をしている。パン販売や、ヤクルト販売なども利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている利用者様に、番号を押したり一緒に取り次いだりして、相手との交流の手助けをしている。遠方のご家族からの手紙や花が届いたりする。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等が突然気兼ねなく訪問したり出来るような開放的な環境づくりに努めている。共用の空間は毎日掃除機、床拭き、消毒を行ない換気やにおいにも気配りをしている。観葉植物や季節の花など飾っている。環境整備委員により、定期的にチェックしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・常に共有空間の快適な維持に気を配り、清潔で居心地の良い環境づくりに配慮しており、家族も気軽に来訪している。 ・また、建物裏の草取りをして環境美化にも努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の要望に合わせた空間づくりを行なっている。隣接されたスペースについたてを立て図書コーナーやドリンクコーナー、マッサージコーナーを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には本人が持参される物が置かれている。使い慣れた物、安心出来る物を自由に持ちこめる様支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・全室ゆつたりとして、天窓のある部屋もあり、泊りに必要な調度品を用意し、居心地よく過ごせるようにしている。 ・短期間でも使い慣れた物を持ち込み、日中も居室として寛げるよう支援している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	パワリハ、レクリエーション、体操、習字、絵手紙、それぞれが好みに合わせて参加できる様声かけ等を行なっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ戸塚

作成日

平成26年12月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		大規模震災などの備えや取り組みの強化	大規模震災が起きたときに迅速な対応ができるように。	災害時の指定避難場所をご家族様に事前に連絡する。	1年
2		重度化対応への取り組み	重度化したご利用者様への適切で安心できる最良なケアを目指す。	ご家族様や、必要機関との連携また、看護師やケアマネとの連携を密にとり、ご利用者様やご家族様にとっての最良なサービスを検討していく。職員のスキルアップの為に勉強会や定期的なケアカンファを行なう。	1年
3		地域との関係をもっと深めていきたい	地域の方々とも、顔見知りの関係を築けるようになり、地域密着サービスとしての幅を広げていきたい。	地域行事へ積極的に参加をしていきたい。また、イベント開催のときには、地域の皆様にお知らせをし招待するなどして、ミモザの存在を知っていただきたい。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。